

令和5年度学校評価報告書

令和6年2月26日

北海道教育委員会教育長 様

北海道札幌北高等学校長 印

次のとおり令和5年度の学校評価（全日制課程）について報告します。

1 本年度の重点目標

(1) 「自立した生活人」の育成
(2) 「自立した学習者」の育成
(3) 「自ら人生を切り拓く力」の育成
(4) 生徒会活動及び部活動の充実

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校運営	概ね適切に行われた。 日常の教育活動の取組について学校からの情報提供をよりの確に行う必要がある。	自由記述欄においても多くの意見が寄せられている。ネガティブな意見も、学校における教育活動が改善されるという保護者の期待と信頼に基づくものと思われる。 オーバーワークの懸念があるため、働き方改革の進め方が課題である。
改善方策	よりよい学校づくりに向けて教職員間、教職員と管理職間、及び地域との協働を推進する。 学校課題の解決に向けた校内体制が機能しており、今後も適切に推進する。 「働き方改革」に向けた業務の合理化・効率化のため、ワークライフバランスを意識した取組を推進する。	
学習指導	計画どおりに実施できた。主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICT活用についての研修を行い、より効果的に活用を推進することができた。	学習指導に対する保護者の評価が特に高い。適切な教育活動が丁寧に展開されていると評価できる。
改善方策	本校に定着している「ブレインズ・オン」の考え方を基に、ICT活用を含めた学習指導で「16の資質・能力」を育成するための授業改善を推進する。	
生徒指導	生徒理解や教育相談、生徒会活動について、組織的に取り組むことができた。	取組結果が保護者と教職員の学校評価の一致に表れており良い半面、保護者への情報提供に課題が残る。
いじめ対応	いじめのアンケート結果に基づき、迅速かつ適切に対応した。認知件数は0であり、いじめの起こらない環境づくりができた。	授業におけるペアワークや学校行事における協働など、普段の取組成果が認知件数に表れている。未然防止に向けた取組を継続してもらいたい。
改善方策	生徒理解の取組については、引き続き組織的に取り組む。 生徒会行事等を通じて、生徒の「居場所づくり」や「主体性」を涵養する取組を推進する。 生徒指導提要の改定を踏まえ未然防止・早期発見・対応・解消に向けて適切に取り組む。	
進路指導	生徒が主体的に進路を選択できるようにする取組を推進できた。保護者への進路情報の提供はさらに工夫していく必要がある。	進路マップに従い進路の選択を促す面談や講習などが積極的に進められており、成果が出ている。
改善方策	進路情報の発信の在り方について、保護者等の理解と協力を得られるよう工夫・充実を図る。 生徒がより主体的に自己の将来を考え、保護者とともに理解を深める機会の提供に努める。	
健康・安全指導	学校行事・部活動を含め学校生活全般における感染症防止策を継続した。	学習活動や学校行事を円滑に進められるよう、学校医との連携も密に取られており評価できる。
改善方策	感染症拡大防止など、生徒自身が自ら考え行動できる危機管理能力の育成を図り、併せて教員の危機管理対応力の向上を図る。	
信頼される学校づくり	概ね信頼関係はあるが、保護者来校の機会を増し、より一層の広報活動充実を図る。	生徒・保護者と教職員間において信頼をベースに学校運営がなされており、高く評価されていることがアンケートから読み取れる。
改善方策	学校HPへの掲載について、学年や分掌・部局顧問などによる細やかな情報発信を行う。また、働き方改革に積極的に取り組み、生徒と向き合う時間の確保に向けた学校づくりを継続する。	

3 添付資料

令和5年度 学校評価に関するアンケート集計結果（保護者・教職員）